

の だ きょう こ
野田恭子さん

NPO 法人ディスカバリーくまもと
ボランティアの会理事長
キャリアウエーブ代表

PROFILE

1976年渡米。ワシントンDC
でコンシェルジュとして働く。
帰国後N I コミュニケーションズ
設立。熊本学園大学招聘
教授、キャリア形成アドバイザー。
映画評論家の顔も。



個人がグローバルに
つながるため、
自分の思いを伝えるため、
英語は必要なツール

NPO 法人ディスカバリーくまもと
ボランティアの会/
キャリアウエーブ
熊本市中央区北千反畑町7-26
TEL : 096-343-6722
E-mail : wash.d.c.kyn@spice.ocn.ne.jp

一どのような活動をされていますか。
野田 熊本県の観光促進、国際交流、
そして次世代育成に貢献するため、
熊本城、細川刑部邸、水前寺公園や
その中にある古今伝授の間などを、
外国からのゲストやツーリストを英
語で案内しています。メンバーは約
50人、活動は8年目になります。一
人ひとりの責任感とプロ意識を高め

るためと、組織維持・運営発展のた
め有償ボランティアとして活動して
います。
一活動を始められるきっかけは何
だったのですか。
野田 27年ほどアメリカに住んでい
たのですが、自分の故郷にこんな素
晴らしいものがあると帰国してから
気付きました。海外の人々に熊本の



取材担当
熊本学園大学2年
原奈菜絵

良さを紹介して喜んでもらえるのは、
自分にとって何よりの励みにもなり
ますね。

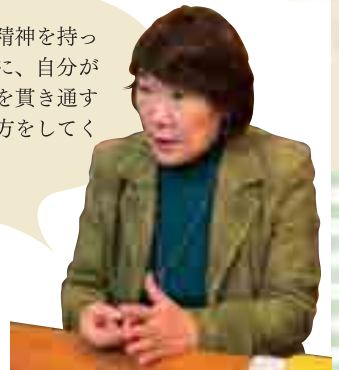
一27年前に渡米される際、不安はな
かったのですか。

野田 仕事で行き詰っていて、転換
期なのかもしれないという時期でし
た。不安よりも「行きたい」という気
持ちの方が強かったですね。実は親
にも相談しないまま、内緒の渡米だ
ったんです。アメリカに着いてすぐ、
行く前に感じていた色々な重圧感が
スーッと軽くなりました。ホテルに
勤務したのですが、最初は英語がう
まく話せないながらも、一生懸命自
分の思いを伝え、一緒に働く他国の
人たちと助け合いました。その時の
経験が、現在の自分の生き方に反映
されていると思います。

一野田さんの人生に、英語はとても
重要だったということですね。

野田 そうです。英語は個人と個人
がグローバルにつながっていくため
に必要なツールであり、自分の思い
を伝えるコミュニケーションの方法
を学ぶチャンスも与えてくれたと思
います。若い皆さんには、ぜひ海外
に目を向けてほしいですね。そして
失敗を恐れずに、信じたことを貫け
る人間になってください。私はその
ためのエールを、送りつづけたとい
います。

チャレンジ精神を持っ
て、恐れずに、自分が
信じたことを貫き通す
ような生き方をしてく
ださい。



2014年	2013年	2012年	2011年	2007年	2006年	2005年	2004年	2003年	1995年	1986年	1976年	1966年
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

野田恭子さんのキャリアストーリー
映画芸術社編集部(東京)に入社
渡米
The Mayflower
Hotel キャリアコンシェル
ジュに
ワシントンDC地域コンシ
ェルジュ協会副理事長就任
帰国
Noda
International
Communications
(N I コミュニケーションズ)映
画を見て英語でトークする活動
など)設立
英語でガイドボランティア団体創設
キャリア指導の活動団体・キャリ
アウエーブ創設
熊本学園大学で教鞭を取り始める
N G O 国連女性の地位委員会世界
会議参加。ガイドボランティアの
会をディスカバリーくまもとに改名
同会がN P O 法人となる
熊本県観光大賞(県知事賞)受賞。県
下で「英語でおもてなし講座」開始
熊本県ボランティアガイド連絡協
議会理事就任。日米協会熊本・理
事就任。熊本学園大学招聘教授

